

ふれあい

vol. 30

平成 25 年 6 月

今回の特集は

ロボットスーツ HAL



レポート 患者さま満足度調査報告

健康コラム バレット食道

新任医師の紹介

 林病院 
百年の思いを
地域にのこす
Hayashi Hospital
Since 1913

〒915-8511 福井県越前市府中一丁目5番7号
電話. 0778-22-0336 FAX. 0778-23-4014
e-mail. hp-hayasi@ma.interbroad.or.jp
URL. <http://www2.interbroad.or.jp/hayasi/>

理念

わたしたちはあなたとともに
納得して受けられる医療 安心して受けられる医療を めざします

基本方針

地域一般病院として急性期医療を行います
患者さまの権利を尊重し十分な説明のある医療を行います
地域の医療機関と連携し連続した医療を行います
健康寿命の伸長をはかる医療・在宅サービスを行います
人間ドック・健康診断などの予防医療を行います

ロボットスーツHAL

■2013年1月、当院にHALがやってきました。

皆さんはHALをご存知でしょうか？何のことやらパツとは思いつかないかもしれませんね。

HALとは、当院で行われるリハビリテーションのツールの一つとして導入された、福祉用の下肢運動補助装置です。

正式名称は、Hybrid Assistive Limb、略してHALなのです。どういう意味かという、コンピューターの技術と人体の力を融合して体を動かすために補助する足(脚)というようなニュアンスの言葉で表される名称です。

HALは、患者さんの下肢に装着することによって、患者さんの意思で足を動かそうとすると、病気や事故でなかなか思ったとおりに動かない足をなるべくスムーズに動かすことで体に足の動かし方を記憶させてリハビリが進みやすくする可能性があります。

HALの歴史を紐解くと、そもそもは、筑波大学の山



ロボットスーツHAL

海嘉之教授により1991年から研究が行われ、1996年に開発されて、2008年にHAL福祉用が全国の医療・福祉施設で使用できるようになりました。

2004年に山海教授によりCYBERDINE社(サイバードライン社)が設立され、そこからHALが供給、バージョンアップされています。

■HALの動作のしくみ

CYBERDINE社のホームページでは、以下のように説明されています。

- HAL(Hybrid Assistive Limb)とは、体に装着することによって、身体機能を補助・増幅・拡張することができる世界初のサイボーグ型ロボットです。
- 人が筋肉を動かそうとしたとき、脳から運動ニューロンを介して筋肉に神経信号が伝わり、筋骨格系が動作しますが、その際に、微弱な生体電位信号が皮膚表面に漏れ出てきます。HALは、装着者の皮膚表面に貼り付けられたセンサーでこの信号を読み取り、その信号を基にパワーユニットを制御して、装着者の筋肉の動きと一体的に関節を動かすのです。これによって動作支援が可能になります。

- 生体電位信号を検出し、人間の思い通りに動作する「サイバニック随意制御システム」だけではなく、人間のような動作を実現することができる「サイバニック自律制御システム」の二つの制御系が混在したサイボーグ型ロボットです。
- 生体電位センサの他にも、関節角度を測定する角度センサ、重心の位置を検出する床反力センサ等が取り付けられています。
- HALの応用分野は幅広く、福祉・介護分野における身体機能に障がいがある方への自立動作支援、介護支援をはじめ、工場などでの重作業支援、災害現場でのレスキュー活動支援、エンタテインメントなど、幅広い分野での適用が期待されています。

脳神経外科 林 純哉



私たち林病院では、2013年1月に正式にロボットスーツHAL・福祉用を導入いたしました。

これからHALを用いたリハビリテーションで患者さんの運動能力を改善あるいは回復させるのをお手伝いしたいと考えていますが、HALの対象となる方は、主に、脳卒中、頭部外傷、脊髄損傷などの患者さんたちです。

HALが果たしてリハビリテーションの効率化や運動機能の向上に役にたつのかは、全国のHALを導入した施設からの報告もまだまとまっておらず、未知数です。

これから私たちが患者さんたちのリハビリに用いさせていただくことで、その成果を上げていこうと考えています。

もちろん、HALを装着することに抵抗を感じる患者さんもおられれば、新しいリハビリテーションにとっても興味をもたれる方もおられますので、患者さんのご希望に沿った形で実施していく予定です。

当院におけるHALによるリハビリテーションの対象となる方

現時点では、HALの対象となる患者さんは入院患者さんの中で、脳神経外科医、整形外科医、リハビリテーション・セラピスト、看護スタッフとで話し合っ決定し、慎重に実施していくことにしております。外来通院中の後遺症のある患者さんや、HALを用いたリハビリテーションを指定してお問い合わせには応えられませんが、治療実績を見ながら徐々に対象患者さんを広げていきたいと考えています。

すでに数名の患者さんがHALによるリハビリテーションを受けておられますが、HALを装着して立ったり、歩いたりした後に自力で同じ動作をしようとする、以前よりやりやすくなったと実感される方や、歩く姿勢が良くなる方がおられました。

今年には林病院の創立100周年の記念すべき年でもあり、さまざまな記念行事を通じてHALのことをより多くの方に知っていただきたいと思っております。

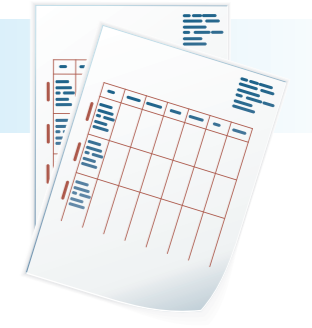
時代の変遷とともに、医療・リハビリテーション技術は一步先へと常に進んでいます。

HALを通じて少しでも多くの患者さんがより高いリハビリテーションの目標を達成できることを心より願っております。



HALを用いたリハビリを習得するためスタッフも日々トレーニングしています

report 患者さま満足度調査報告

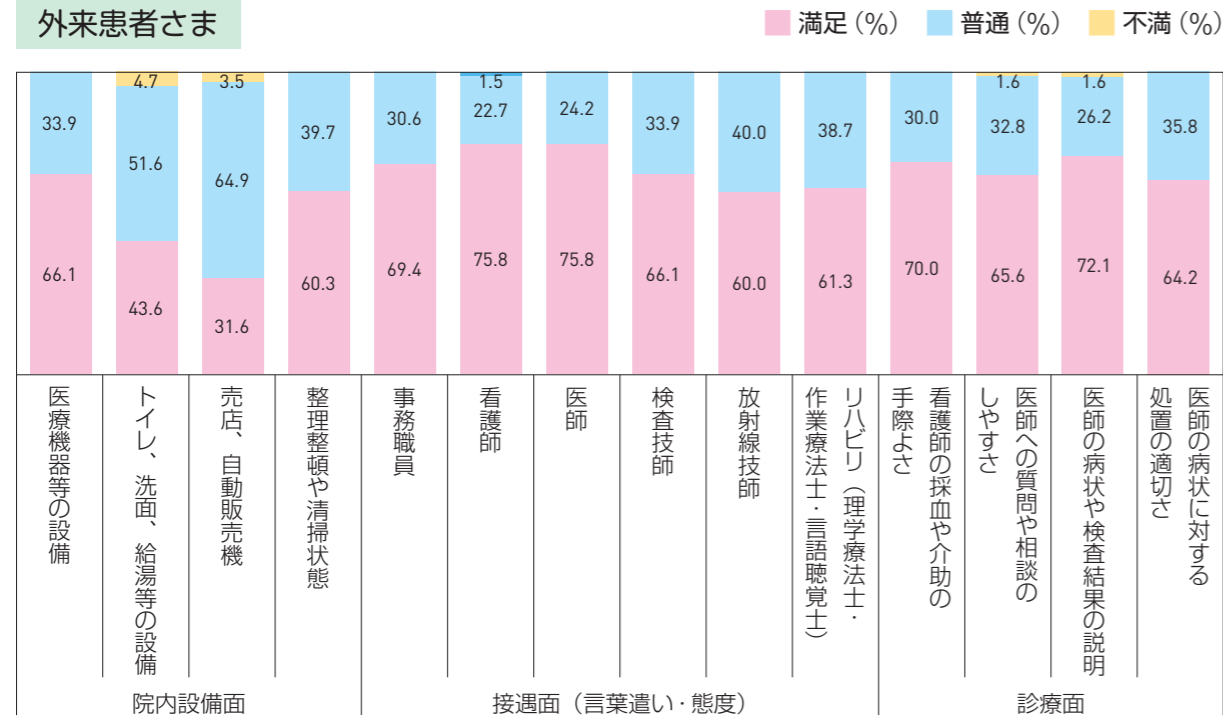


平成24年12月10日～12月29日の期間において、患者さま満足度調査アンケートを実施しました。
 外来・病棟において各100部配布し、アンケートの回収率は外来患者さま75%・入院患者さま88%でした。
 調査結果を報告させていただきます。(接遇委員会)

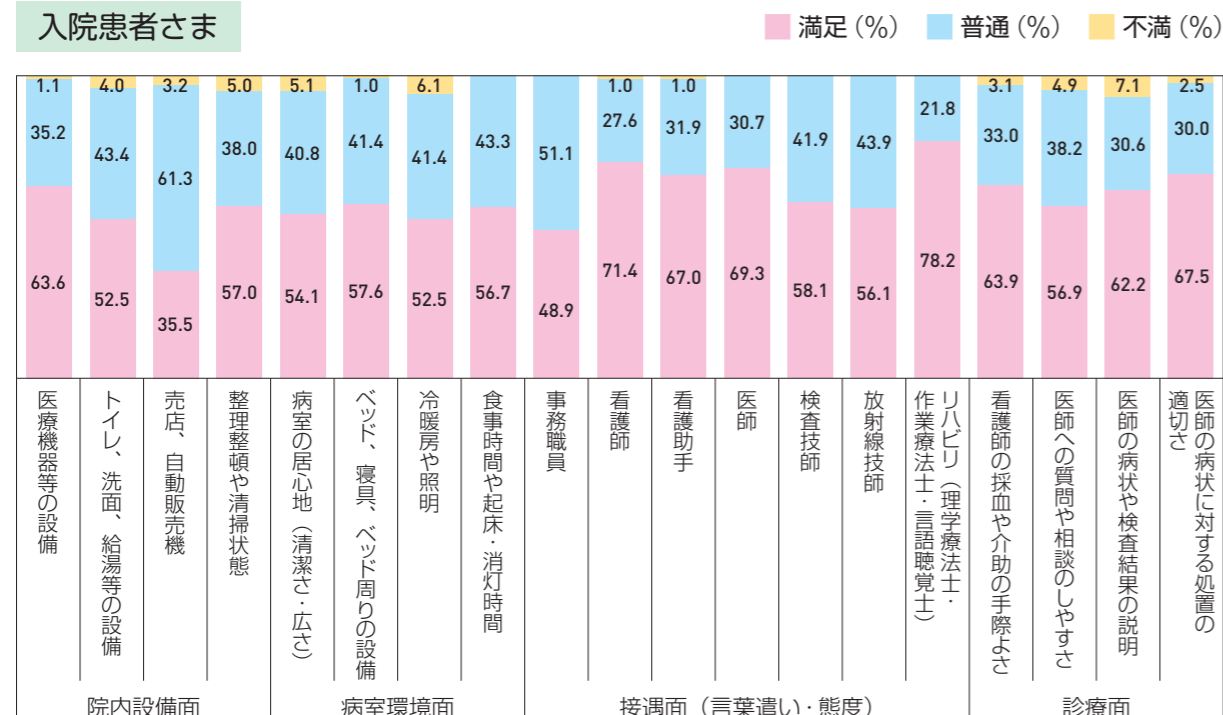
問 院内設備・病室環境・接遇・診療について

答

外来患者さま



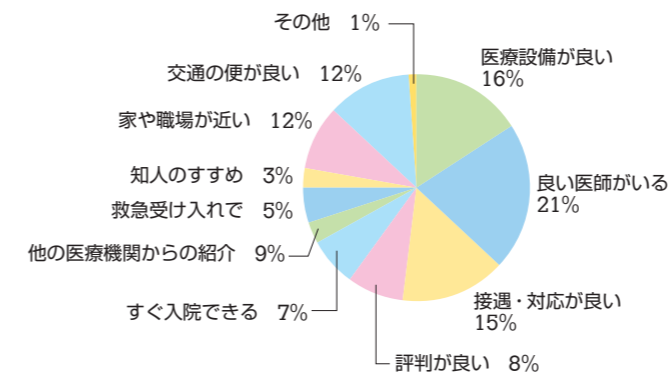
入院患者さま



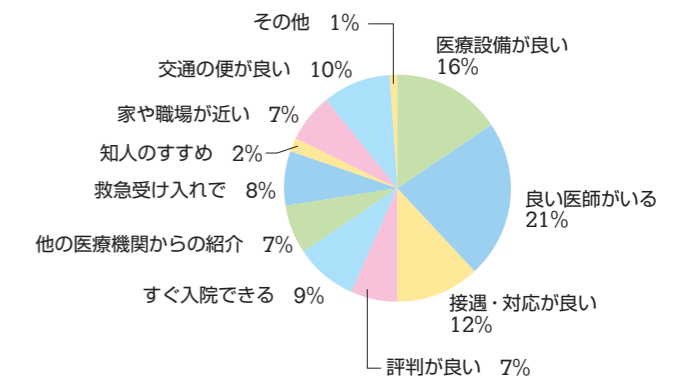
問 当院の選択理由をお聞かせください

答

外来患者さま



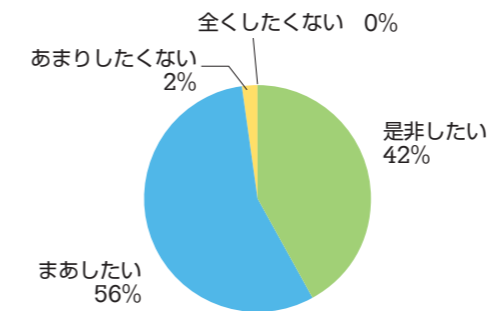
入院患者さま



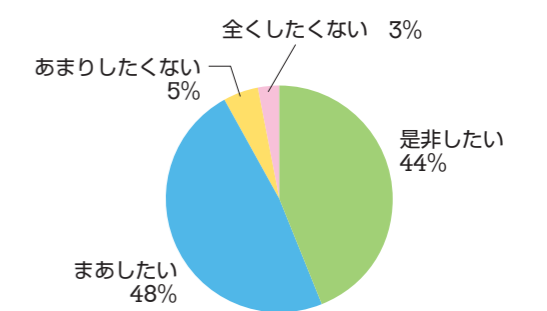
問 知人等に当院を紹介や推薦したいと思われますか

答

外来患者さま



入院患者さま



患者様満足度調査のご協力ありがとうございました。

2012年12月に「患者さま満足度調査」を行い、その集計が終了いたしました。前年度と比較し、当院選択理由の「接遇・対応が良い」は、外来では6%から15%に、入院では10%から12%に上昇しております。しかし、ご意見の中では、接遇に対して「あいさつ」や「態度」に対する不満の声がありました。これらは、林病院職員全員への評価と捉え、更なる接遇意識の向上に努力が必要と考えております。

アンケートのご協力と貴重なご意見ありがとうございました。

接遇委員会委員長 多保 孝典



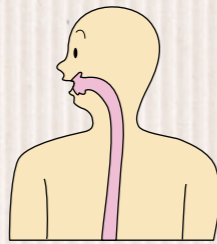
バレット食道



食道の粘膜は、皮膚などと同じ扁平上皮で覆われ、胃や腸は円柱上皮で覆われています。胃から連続して食道内に存在する円柱上皮をバレット粘膜といい、バレット粘膜が全周性で最長が3センチメートル以上のものをバレット食道といいます。

● 発生

バレット食道は、食道本来の扁平上皮が胃から連続する円柱上皮に置換された状態を言い、胃食道逆流症により発生すると考えられています。長期間逆流性食道炎が続くことで、発症するとも言われています。逆流性食道炎は、胸焼け症状を起こす、わが国では代表的な疾患です。高齢者の増加、高蛋白・高脂肪食といった食生活の欧米化、ヘリコバクター・ピロリ菌の感染率の低下など種々の要因によって、急速に増加しています。わが国のバレット食道の頻度は、内視鏡検査を受けた方18400例中1.2%と報告され、その大半は長さの短いものです。



● 症状

逆流性食道炎の症状と同じですが、胸焼け、すっぱいものや苦いものが口まであがってくる呑酸、つかえ感などの症状が多くみられます。特に夜間の痛みが特徴的です。しかし、症状がないケースもあるので注意が必要といえるでしょう。

● 食道がん

バレット食道がんの頻度は、食道がん全体の1%前後と、本邦では稀な疾患でした。しかし近年増加傾向にあり、日本食道学会の全国

集計では、2003年の時点で、全食道がんの3%に増加しました。現在の日本では食道がんの95%は、喫煙や飲酒が主因である「扁平上皮がん」ですが、欧米の白人男性では食道がんの約半数がバレット食道から発生した「腺がん」です。欧米人では日本人に比べて逆流性食道炎の頻度が高いことが知られており、バレット食道も、バレット食道から発生する腺がんも、日本人に比べて多くみられました。3対1の割合で、女性より男性に発症するケースが多いようです。現在の日本における腺がんの発生は、食道がん全体の約5%程度と推測されていますが、逆流性食道炎、バレット食道の増加に伴い、今後、腺がんが増加すると考えられています。

● 治療

バレット食道は、胃酸が食道に逆流することにより発生します。そのためプロトンポンプ阻害剤の投与により胃酸の分泌を抑え、胃のPHを正常に保つと、バレット食道への進展が抑制できると考えられています。食道がんは、がんの深進度、リンパ節への転移の有無などによって治療法が変わります。内視鏡的な局所切除法で完全に治癒する患者さんも、増えてきています。

● 予防

予防の第一は、逆流性食道炎にならないことです。そのためには、高蛋白食や高脂肪食、肥満、喫煙、飲酒などを極力避けることが重要です。年2回位、内視鏡検査することも必要です。

(医師 南亮)

新任医師の紹介

New Face Introduction



整形外科 佐藤 充彦 医師

4月から林病院で勤務しています佐藤です。越前市出身で、子供のころ怪我で救急外来を受診したことがありますが、医師として勤務するのは初めてです。職員の方々ともほとんどが初対面ですが、自分としては違和感もなくとても働きやすいと感じています。整形外科専門医で、これまで福井大学附属病院で関節外科、スポーツ外傷の治療を行ってまいりました。整形外科領域では、骨や関節の加齢性、変性疾患、スポーツによる外傷・障害、交通事故・労災による外傷など多岐にわたります。これまでの整形外科医として臨床経験や知識を生かすとともに、常に新しくより高い知識の習得と技術の研鑽に励み、地域の皆様の健康に少しでも貢献できるよう全力を尽くしていく所存です。皆様どうぞよろしくお願いたします。

専門分野

関節外科
スポーツ外傷
外傷一般



脳神経外科

荒井 大志 医師
あらい たいし



内科

永野 誠治 医師
ながの せいじ



泌尿器科

多賀 峰克 医師
たが みねかつ

診療案内

診療受付時間
月曜～土曜(水・金曜を除く)
午前8:00～午後5:00
水・金曜
午前8:00～午前12:00

診療時間
月・火・木・土曜
午前9:00～午前12:00
午後2:00～午後5:30
水・金曜(午前のみ)
午前9:00～午前12:00

休診日
日曜・祝日、水・金曜日午後
夏期休暇・年末年始

医師一覧

整形外科 野尻 正憲 大塚 和史 佐藤 充彦 佐竹 剛 柴代 紗衣 高橋 寛 宮田 誠彦 新井 隆三 貝澤 幸俊	外科 千葉 幸夫 多保 孝典 宮永 克也 木村 哲也 佐々木 正人 林 秀樹	内科 森島 繁 酒井 克哉 荒井 肇 中嶋 元次 多崎 俊樹 天谷 直貴 福岡 良友 永野 誠治	内科(血液疾患・痛風) 中村 徹	臨床検査 南 亮	眼科 南部 浩隆 赤木 好男	循環器科 酒井 克哉 森島 繁 李 鍾大 池田 裕之	消化器科 多保 孝典 宮永 克也 荒井 肇 大谷 昌弘 福山 智基	泌尿器科 秋野 裕信 多賀 峰克	内科(腎臓) 高橋 直生	呼吸器科 長内 和弘	回復期リハビリテーション病棟 中嶋 元次	内科(リウマチ膠原病) 梅原 久範	内科(人工透析) 松田 哲久 横山 由就 三崎 裕史	神経内科 人見 健文 江川 斉宏	健診・人間ドック 林 秀樹
--	---	---	----------------------------	--------------------	-----------------------------	---	---	-------------------------------	------------------------	----------------------	--------------------------------	-----------------------------	--	-------------------------------	-------------------------

救急患者は常時受け入れます



今年度の新入職員です。

(林理事長、野尻院長と共に撮影)

みなさまといろいろな所で接する機会があるかと思いますが。その時は
気軽に声をかけください。これからどうぞよろしく願っています。